

◇各教科等の授業改善に向けた具体的な方策

【保健体育】

<p>■生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年共通して、基本的な規律や集団行動は身につけている。 ・運動が習慣化されていない生徒の体力低下が懸念される。 ・男女共習に抵抗を感じている生徒や保護者がいる。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共習の授業内容、グループ編成。 ・感染防止対策と運動量の確保。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<p>1 基礎学力の定着 補強運動を継続して行うことで、基本的な体力向上を図る。また、各単元の基本技能を正確に身に付ける事を目標とし、運動量と運動理論をバランス良く融合させる。</p> <p>2 1を支える家庭学習の推進 現在、コロナウィルスの影響で自宅で過ごす機会が増えているため、体育の授業以外でも基礎体力づくりの一環として、授業で取り組んでいる補強運動を取り入れることを推進する。また、生活の中でも体の活動レベルを高め、可能な限り歩くことやジョギングすることも必要である。</p> <p>3 授業における思考力・判断力・表現力の育成 各単元の課題に対して、学習カードや学習シートを用いて生徒の課題に対しての理解や、課題解決に向けての取り組み姿勢を確認している。技能として出来ない内容でも、運動理論の理解や、球技等のゲームでの判断力、課題解決に向けて個人やグループで体現できるような取り組み姿勢を指導していくことで、授業改善につなげていく。</p> <p>4 3を自ら伸ばしていくための主体性の育成 失敗のみならず、達成できる経験や体験を積み重ねることが重要であるため、課題設定を工夫する必要がある。達成できる課題と段階に応じた課題を設定し、できる・できないの練習を繰り返すことで主体的に考え取り組む姿勢が身につく、授業に対しての意欲も高まる。</p> <p>5 ICT機器を活用した授業実践例 正しい技能動作の分析や、録画機能を活用して、生徒自身の動作分析を客観的にとらえることができる。</p> <p>6 小中一貫 「走る、跳ぶ、支える、泳ぐ」の基本的な技能を身に付けておくことで、学習の習熟度は高まるため、神経機能が高まる小学生の時期に様々な運動を取り入れることを推進したい。</p>